



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第137号 2026年1月20日 発行

場所を選ばず、誰もが輝ける舞台へ！ 「リハビリテーション・スポーツフェス2025」開催報告

企画部 理事 種本 美雪
(専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー)

このたび、企画部主催にて「リハビリテーション・スポーツフェス2025」を開催した。本大会は当会独自の取り組みであり、「施設でも、自宅でも、どこでも、家族と仲間とスポーツを楽しむ」をテーマに、障害のある方々へ活動の機会を提供することを目的に企画されている。第5回となる今回は、参加者の手元に年内に賞状等を届けられるよう、例年より開催時期を約1か月早めての実施となった。その中で、個人競技への参加者は延べ約600名(成人部門38名、シルバー部門252名、ゴールド部門306名 ※いずれも延べ人数)に達し、今回も非常に多くの方にご参加いただいた。競技種目は、前回の個人競技から1種目を減らした3種目と、ペア競技を設定した。特に「ピンポンカップイン」では、例年同点(同位)が多数出る傾向にあるため、今回は「カップに入れる得点」に加え、「カップを

戻すまでのタイム」も競う形式に変更し、より競技性を高める工夫を行った。

結果として、今回は記録を更新する好成績も生まれており、参加者のレベルが着実に向上していることが伺える。改めてご参加いただいた皆様、ならびにご協力いただいたスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。詳細な結果については下表をご参照いただきたい。また、今回も能登エリアから多くの方にご参加いただいた。生活環境が変化中、本大会を通して楽しいひと時を過ごしていただけたならば幸いです。時代の変化とともに環境が変わり、生きづらさを感じることもあるかもしれないが、参加された皆様にとっての「自分らしく暮らす」を、今後も大切に守っていききたいと思う。

【優勝者の記録】

種目	部門	記録	
フライングディスク	成人部門	2002cm	穴水ライフサポートセンター
	シルバー部門	5300cm	有縁の荘
	ゴールド部門	5200cm	有縁の荘
スタッキングタワー	成人部門	25.18秒	さくらんぼ
	シルバー部門	21.55秒	さくらんぼ
	ゴールド部門	41.48秒	自宅
ピンポンカップイン	成人部門	430点	さくらんぼ
	シルバー部門	440点	恵寿総合病院
	ゴールド部門	370点 14.23秒	自宅



【競技別延べ参加者数(個人競技)】

競技名	子供部門	成人部門	シルバー部門	ゴールド部門
フライングディスク	0名(±0名)	1名(-2名)	79名(+32名)	112名(+46名)
スタッキングタワー	0名(-2名)	7名(+7名)	65名(+9名)	62名(-4名)
ピンポンカップイン	0名(±0名)	30名(+21名)	108名(+8名)	135名(-65名)



世代を超えて、能登に笑顔を。志賀高校×県士会が紡ぐ交流の輪。

事業部 理事 加藤 孝之
(町立富来病院)

10月18日(土)、志賀町の仮設住宅「とき第8団地」にて、志賀高校とのコラボレーションによる「中高生と高齢者の交流会」を開催した。志賀高校から授業の一環として、能登半島地震で被災した地域住民と交流できる場がないかとの問い合わせがあり、本会の目的と一致したため、合同開催の運びとなった。当日は高齢者15名、高校生12名、スタッフ6名が参加した。内容は、まずスタッフが「脳活プログラム」を実施し、その後、高校生が高齢者にスマートフォンやタブレットの使い方を説明しながら交流を深めた。高齢者からは「若い方の力を借りて楽しく学ぶことができた」「脳活プログラムがとても楽しく、普段の生活にも取り入れてみたい」といった声が聞かれた。後半は志賀高校生が企画した「こころと体を元気にするレクリエーション」と「eスポーツ体験」を行った。被災地においても、元気な高齢者と高校生が共に活動できる、非常に意義深い交流会となった。今年度の本事業は、

12月14日に金沢福祉用具情報プラザでの開催を無事に終え、次は2月14日に金沢市地域包括支援センターとびうめにおいて開催する予定である。興味のある方はぜひ参加してほしい。



交流会の様子

能登・七尾で、OTの可能性を再発見する1日！ あなただけの新しい「味方・見方・診方」に出会おう！！

第34回石川県作業療法学会 学会長 永井 亜希子
(恵寿総合病院)

第34回 石川県作業療法学会 in 七尾は、能登半島地震後の七尾にて、2026年7月4日(土)に開催予定である。今回の学会テーマは「作業療法の“みかた”をひろげる ～味方として、見方を変え、診方を磨く～」である。キーワードを「みかた」とした。「みかた」には、**味方・見方・診方**という3つの意味が込められている。作業療法士が対象者の生活に寄り添う「味方」としての姿勢、視点を広げる「見方」、専門性を高める「診方」を再考することを目的としている。本学会では、若手の方が積極的に参加・発表できるよう、事前にアンケート調査を実施し、その結果を踏まえてプログラムを構成していく。現場で求められるテーマや実践的な内容を取り入れ、**ポスター発表・口述発表**の両形式を予定している。特にポスター発表では、各演題にQRコードを付与し、誰もが簡単に質問できる仕組みを検討中で

ある。これにより、発表を通じてさらに見識を深めてもらえることを期待している。また、子育て中の方にも安心して参加いただけるよう、キッズスペースの利用も検討している。ライフステージに応じた学びの場を提供し、誰もが参加しやすい学会を目指したい。多くの方に発表、参加をしていただき、皆様の「みかた」が増えることを期待している。



シリーズ 能登半島地震 活動報告④

1名から2名へ、安否確認の輪を広げよう。復興を支える迅速な一歩。

災害対策委員会 理事 合歡垣 紗耶香・市川 翔悟
(芳珠記念病院) (公立河北中央病院)

9月27日、毎年実施されている日本作業療法士協会の災害シミュレーション訓練に参加した。昨年と同様に第1、2報ではLINEオープンチャット(災害・OT石川)を使用し、今年度から新たに会費ペイシステムを利用し第3報として訓練を実施した。結果、第1・2報(72時間後)に105施設・計540名と、10月30日までに133施設・計673名の無事を確認することが出来た。第1・2報では昨年より多くの安否を確認することができ、会員の意識の高まりを感じている。

LINEオープンチャットは12月現在で328名の登録をいただいている。土会の安否確認は、災害時における医療体制支援の状況を迅速に把握し、必要に応じて石川JRATなどの構成団体との協働や必要な支援内容の検討、土会としての活動準備および事業継続の判断につなげるために実施している。会員を含めた被災者の自立生活の再建・復興を目指すためにも、所属施設の代表者に加え、追加で1名以上の登録を今一度お願い申し上げます。

地域課題を「その地域だからできる支援」へ 輪島の子どもたちを支える、NPOじっくらあとの挑戦とOTの役割

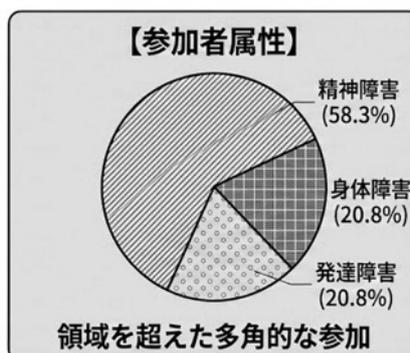
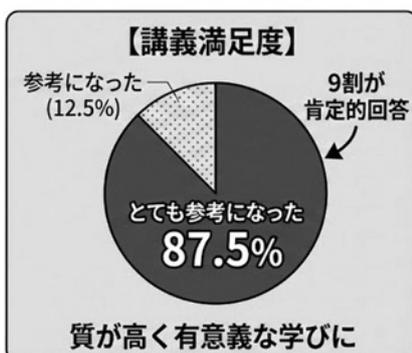
発達障害支援部 副部長 宮下 早苗
(小松こども医療福祉センター)

11月29日(土)、輪島市のごちゃまるクリニックで、発達障害支援部・精神医療部合同研修会「NPO法人じっくらあとの活動とこれから」-輪島の子どもたちの居場所づくりの取り組みについて-をハイブリッドで開催した。現地には11名、オンラインには19名、計30名の参加があった。前半はクリニックの小児科専門医である小浦詩先生より、今の輪島の子どもたちをとりまく状況や、子どもたちの居場所づくりの取り組みについての講演があった。後半は実際の事例をもとに、グループワークで様々な視点からの支援の在り方を参加者で共有した。

輪島では、震災での環境の変化以前から少子高齢化という地域の問題を抱える中、その地域で生活している子どもたちの抱える問題に対して、その地域だからこそできる支援があるはずという逆転の発想で様々な取り組みを実践されていた。それは、その人の弱みに目を向けるのではなく、強みに目を向けるという作業療法にも通じるものがあると強く感じた。

今回、輪島の地で本研修会を開催できたこと自体が、とても大きな意味を持つ時間となった。このような貴重な機会を共に作ることができたことに、感謝の意を表したい。

【参考資料】研修会アンケート結果 (回収数：24名)



子どもたちが「OTすごい！」と目を輝かせた瞬間 キッザケアいしかわ初開催レポート

身障・老年医療部 理事 合歡垣 紗耶香
(芳珠記念病院)

11月8日(土)、石川県産業展示館において「キッザケアいしかわ」が開催された。本イベントは介護の仕事を楽しく学べる職業体験の場として今年初めて企画されたものであり、県内の小中学生を対象に、介護支援専門員、介護福祉士、ホームヘルパー、リハビリテーション専門職の仕事を体験できる内容となっている。

当会では、脳卒中による片麻痺を想定した日常生活動作体験を提供した。参加者には片手で更衣を行ってもらい、日常生活動作がどれほど困難になるかを実感してもらった。そのうえで「楽に着替える方法」を考えてもらい、自助箸の使用体験も行った。子どもたちは積極的に取り組み、「利き手が使えないと普段は簡単なことも難しい」「工夫すれば着替えが楽になることがわかった」といった感想が寄せられ、多く

の子どもたちに作業療法士の仕事を知ってもらう貴重な機会となった。今回の体験を通じて、将来作業療法士を志す子どもが増えることを期待したい。



利き手が使えないから難しいー！
自助箸って便利！



作業療法士を知っていますか

耳鼻咽喉科専門医が説く「嚥下のメカニズム」×ボイストレーナーが教える「発声テクニック」。喉のプロ2人に学ぶ、作業療法の新視点！

荒木 美穂
(芳珠記念病院)

今回、自治医科大学の耳鼻咽喉科学・小児耳鼻咽喉科・野田昌夫先生、ボイストレーナーのひろ子先生を講師にお招きし、嚥下の基礎と作業療法への応用をテーマに作業療法実践セミナーを開催した。野田先生からは嚥下の基礎と作業療法への応用、ひろ子先生からは声を出す、話す、歌を歌うことを通して嚥下に関わる機能を高める、という内容で講義をしていただいた。37名の方が研修会に参加し、病院だけでなく施設や地域で働く作業療法士の参加がみられた。

最近食事場面に介入することが増え、作業療法のプログラムの中で歌唱を使用することも多く、今回の研修は自分の臨床に活かせることがたくさんあった。またボイストレーナーの方から講義を受けることがなかったため貴重な時間であった。野田先生からの講義は嚥下障害診察ではどのようなことを問診しているのかがわかり、動画を用いてどの場所で誤嚥しているのかなどとてもわかりやすく説明があり、知識を深めることができた。ひろ子先生の講義では、

発声において大事なトレーニングや今すぐ実践できるトレーニングを教わり、実際に声を出すことで体感でき楽しい時間であった。

何気なく歌うのではなくどんな音で歌うのか、どうすれば声量が出るのかなどを学ぶことができて明日から実践していこうと思う。

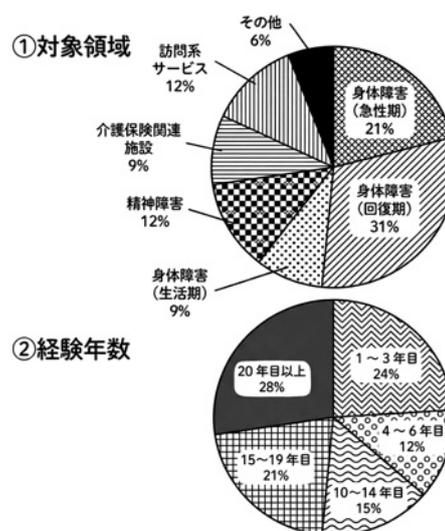


～令和7年度福祉機器部研修報告～ 知っておきたい住宅改修・福祉用具調整の意外なポイント

福祉機器部員 近畑 惟
 (恵寿総合病院)

12月14日(日)、オンラインにて、認定作業療法士・認定訪問療法士である中森清孝氏から演習も絡めた講義をいただいた。県外も含め、さまざまな対象領域、幅広い経験年数の方、35名の参加があった。内容は、介護保険法や障害者総合支援法の比較から、OTが知るべきサービス・制度について学ぶことができ、特に介護保険法の住宅改修給付費を支給限度額まで利用したあと、再度利用するための例外規定の情報は目から鱗だった。また、家屋評価のポイントでは、事例を基に「考える・気づく」を目的とした演習が行われた。限られた情報で環境・身体機能・社会背景を想定し「考える・気づく」姿はOTの在り方を表しているようだった。参加者から、在宅や病院など領域の違う意見を聞くことができ学びに繋がった、全ての年代のOTに聴いて欲しかったなどのコメントを頂いた。今後もさまざまな経験や気づきのポイントを得る場を設け、多くの会員に参加いただきたい。他、当部が取り組む「福祉用具相談支援システム(生活行

為工夫情報事業)」も活用いただきたい。今年度は例年実施するコンテスト開催5回目を記念し、**自助具作製材料を事例登録者全員にプレゼント**するので、皆様からの投稿もお待ちしている。



研修会アンケート結果より
 (33名回答 回答率：約94.3%)

制度の理解から、現場での関わり方まで事例と対話で深める、 認知症支援の「実践力」向上研修

地域保健福祉部 部長 今井 啓介
 (加賀のぞみ園)

11月15日(土)、令和7年度訪問リハビリテーション実務者研修会を金沢市異業種研修会館とオンラインのハイブリッドで開催した。OT、PT、STの合同で開催され、総数24名の方が参加した。講師に県立こころの病院の村井先生と特定非営利活動法人ニット理事長の加納先生を招き、認知症の方に対する訪問リハビリについて学びを深めた。村井先生からは認知症に対する訪問リハビリの制度や実践報告をしていただき、認知症に対する訪問リハビリの最新情報

や訪問した際に評価するポイントや生活の工夫を学んだ。加納先生からは成年後見制度についての基本的知識や認知症の方を支援する上での関わり方や心構えを学んだ。講義後はグループワークも行われ、臨床に繋げるための学びを参加者同士で共有し、現場での悩みや意見交換を行うことができた。訪問リハビリ実務者研修会は次年度も開催予定である。訪問リハビリに興味のある方は経験の有無を問わずぜひ参加してほしい。

市町事業に関わるリハ専門職育成研修①に参加して

教育部・管理運営教育部 理事 桂 靖典
(木島病院)

本研修は、平成27年度より石川県PT・OT・ST（以下POS）会と石川県リハビリテーションセンター（以下、県リハ）との協働により、県内POSの資質向上と支援組織の充実を目的に行っている研修の1つである。各POS会の要件を満たし、本研修と後日開催予定の研修②を受講（3年毎）することで、県リハHPの「リハビリテーション専門職の協力者名簿」に本人の同意を得て名前が掲載される。

今年度は11月22日（土）にハイブリッド開催にて、津山市役所の安本勝博氏によるリハ専門職と行政との連携、羽咋市役所の向瀬芳野氏からの羽咋市における地域リハ支援活動と課題、石川県PT会の北谷正浩氏による職能団体からの報告を頂き、OT24名、PT22名、ST2名、小松市役所から1名の参加があった。地域に

て出前講座等を行う経験のある参加者が多く、参加者からはこれまでは講師としての役割で活動を行っていたが、これからは「黒子」となり「支援者支援」を意識しながら住民の思いを汲み取りつつ地域活動を行う視点も大切だと気付いたという意見が多かった。

地域事業に関心を持っているOTは多いと思われる。是非とも育成研修①②を受講して頂き、積極的に地域支援活動に参画して頂きたいと思う。



おすすめ書籍紹介

書籍情報：日本作業療法教育学会 監修／佐藤善久・酒井ひとみ 編著 医歯薬出版
書籍名：作業療法参加型臨床実習 その理念と実践

財務部 理事 吉田 翔
(城北病院)

近年、臨床実習を取り巻く環境が大きく変わり、従来型の臨床実習が見直され、作業療法参加型臨床実習という形式が導入され始めている。実習施設における指導時間や人材の確保など、形式以外にも臨床実習で課題や疑問を感じることは多いのではないだろうか。

今回紹介する書籍では、実習を展開するうえでヒントになるものが多く掲載されている。指定規則・実習指針・実習の手引きについては改正のポイントや今後の課題が掲載されており、概要やねらいを理解することができる。教育方法論や作業療法参加型臨床実習導入のための養成校と実習施設の連携、実習のカリキュラム・流れについてはいくつかの養成校や病院での実践を交えて解説している。例示してあるものは分かりやすく、実際の実習に取り入れやすい内容となっている。

コラムおよび関連資料サイト用QRコードも充実し

ており、さまざまな情報を得ることができる。コラムは11個掲載されており、「できる・できないだけ評価していませんか？」や「学生だって多様な人」、「学生の『大丈夫』の本当の意味は？」など学生の理解やコミュニケーション、指導に活かせる内容となっている。また、学生目線から語る臨床実習体験も掲載されており、実習に対する学生の体験や思いについても理解を深めることができる。

実習だけでなく卒後教育や新人指導にも活かせる内容である。養成校の教員や臨床実習指導者、職場で新人教育を担当する方など、興味のある方はぜひご覧ください。



能登支部

恵寿総合病院 北谷 渉

能登支部は2月7日(土)に、恵寿総合病院にて事例検討会と研修会を予定している。研修会では、「在宅生活を送るがん患者に関わる上で作業療法士が知っておくべき知識～入院から在宅への移行支援の基礎知識～(仮)」として、他職種を講師にお招きした内容を検討中である。在宅に関わるOTのみでなく、がんリハに関わるすべてのOTが自身の関わりを見つめ直し、新たな知見を吸収できるきっかけになってもらえればと考えている。事例検討会と合わせ、多くの参加をお待ちしている。

加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

12月3日のMTDLP事例検討会では趣味として力を入れているバレーボールで再びスパイクを打ちたいという具体性の高い目標に対するアプローチが報告され、外来でのフォローの中でどうモニタリングしていくかという課題について検討がなされた。また、重度呼吸障害を抱える患者に対する生活上の目標設定に難渋した事例が報告され、入院中の余暇や趣味の在り方について検討がなされた。次回の事例検討会は2月4日にオンラインで予定している。こちらへの報告・参加ともぜひ検討していただきたい。

金沢西支部

石川県リハビリテーションセンター 長原 美穂

「福祉のつどい金沢2025」(10月5日)に、作業療法の啓発・普及を目的として参加した。当日はあいにくの雨天であったが、約30名の親子連れなど市民の皆様に来場いただき、作業体験やCOTOTを活用して作業療法のPRを行った。作業に興味を持つお子さんもおられ、将来、作業療法士を目指してくれることを期待したい。

また、第2回事例検討会を11月19日にオンラインで開催した。3事例の報告があり、それぞれの施設での取り組みを知るとともに、急性期・回復期・生活期の各視点から有益な意見交換がなされ、今後の作業療法の質向上につながる内容となった。

次回の事例検討会は、2026年2月25日(水)にWeb開催の予定である。生涯教育制度の改正に伴い事例報告の希望者が増えているため、発表を希望される方はお早めにお申し込みください。

金沢東支部

金沢大学附属病院 仁木 裕也

10月26日に、第2回金沢東支部事例検討会が木島病院で開催された。4事例の報告があり、いずれの報告においても活発な意見交換を行うことができた。

また今回は、コロナ禍以降初の試みとして、事例検討会を現地参集型のみで実施した。Zoom配信を行わなかったため、演題や参加者が集まるか不安もあったが、多くの参加があり、現地ならではの熱気や活発な質疑応答、意見交換が行われた。

今後も「学会発表にチャレンジしたい」「症例について困っていることがある」などの声にできるだけ応え、若手・新人会員を東支部全体で支えていきたいと考えている。

金沢東支部では、情報交換や支部内の連絡網としてLINEオープンチャットを活用している。まだ利用していない会員の皆様には、ぜひ参加をお願いしたい。



◆◆◆令和7年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第3回理事会 議事録◆◆◆

- 日時：令和7年11月17日(月) 19時00分～19時30分 西泉事務所およびZoomによるWeb会議に変更
- 出席理事：米田、合歓垣、堀江、菊池、東(理事5名会場) 桂、種本、高多、永井、中森、酒野、鈴木、市川、五十嵐、吉田(理事10名Zoom) 出席支部長：西村、長原、仁木、北谷(支部長4名Zoom) 後出氏、進藤氏(監事2名Zoom)、欠席理事：加藤、書記：山本(Zoom) 濱岸(会場)
- 議事【議決事項】
 - 〈第1号議案〉令和7年度中間決算・補正予算について、米田会長から説明。全体の収入は石川県高度・専門医療人材養成支援事業補助金、石川県リハビリテーション専門職活用支援事業委託料の追加で増収が見込まれる。支出について、会費徴収と情報配信システムを導入したことで、印刷製本費、通信運搬費が減少見込み。東海北陸学会の積立を50万円から増額予定。予算通りおおむね執行できていると説明があった。 承認
 - 〈第2号議案〉新入会員の承認について
堀江副会長兼事務局長から6月以降の新入会員を報告。新入会員5名、再入会1名合計6名が6月以降入会。 承認
 - 〈第3号議案〉会長及び副会長の職務執行状況の報告
米田会長より、資料を元に報告。 承認
 - 〈第4号議案〉その他
進藤監事より養成校の定員割れがある中、当会として会員数の伸び悩みがある。その中で、組織率を確認し向上させるよう対策して欲しいとのご意見を頂いた。米田会長から理事と相談しながら取り組んでいきたいと返答があった。

◆◆◆令和7年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第4回理事連絡会 議事録◆◆◆

- 日時・場所：令和7年11月17日(月) 19時30分～21時30分 西泉事務所およびZoom使用によるWeb会議
- 出席理事、出席支部長、欠席理事は同上
- 議事【審議事項】
 - ≪執行部≫
 - e-learningシステム導入について：会員が減少している現状の対策として、導入を検討。 承認
初期費用は被災地域会員の研修継続の観点から災害関連の資産からの支出を予定。 承認
 - 講師の宿泊費について：宿泊費の高騰のため、上限1万2000円を超えてもお支払いする方針。 承認
 - 組織改編について：事業部と企画部を合併してはどうかと意見あり。 継続審議
 - DXワーキングについて：メンバーはまだ未確定だが、実際に活動開始したい。 承認
 - 5歳児健診について：協会から積極的に推進して欲しいとのことだが、まだ具体的な依頼がない。依頼があれば、担当の鈴木理事や発達障害部と検討する。鈴木理事から小松市は小松子ども医療福祉センターのOTが関わっていると報告。現状を共有しながらOTの役割など検討し、相談があれば対応する。 承認
 - 論文表彰について：論文表彰の区分の見直し。論文表彰委員で案を検討中。 保留
 - 災害と倫理の規定について：協会との連絡窓口を設置。倫理事案発生時、規定に則って3役や理事と相談しながら解決し、それに伴い、当会の倫理規定を定める。災害について、災害対策本部の規定や安否確認の範囲などの規定を定める。発災時に、会長・副会長が動けない時、理事が対応する。理事も基本的な災害に対する知識や対策を共有できるようにする。 承認
 - 連盟活動について：日本作業療法士連盟が各都道府県に支部の設置を推進している。本会とは直接的な関係性を持つものではないが、連携を図れるようにしたいとの意向があった。ブロードリスニング等でご意見をいただきたい。 継続審議
 - ≪福祉機器部≫東理事から第5回生活行為工夫情報事業について、今年度の投稿者は現時点で1名(修正依頼中)。再度、周知するにあたり、投稿者に特典をつけてもよいか。 承認
 - ≪身障老年医療部≫永井理事から診療報酬改定研修について、3月28日で計画していたが改定は6月の見込みであり5月に開催を変更したい。 承認
 - ≪企画部≫種本理事から会員交流会(新歓および受賞祝賀会併催)の実施の有無と実施する場合のタイムスケジュールの見直しと会費金額の検討。 継続審議
 - ≪広報部≫酒野理事からCOTOTについて、「行政で働くOT」→「能登で活躍するOTの紹介」というテーマに変更しても良いか。 承認 県士会ニュース137号 割付案(別紙) 2026年1月発行予定 承認
 - ≪財務部≫米田会長から備品購入の際に、減価償却の該当金額を一般的な30万円以上とする規定を取り決める。 承認
 - 【報告事項】各部局、支部から報告。

インフォメーション 研修会案内・県士会活動

スキルアップセミナー
 高齢期作業療法の学びを深める
 日時：2月1日(日)
 精神医療部・認知症対応委員会

第3回事例検討会
 日時：2月4日(水)
 加賀支部

第3回事例検討会
 日時：2月6日(金)
 金沢東支部

第3回事例検討会・能登支部研修会
 日時：2月7日(土)
 能登支部

中高生と高齢者の交流会
 日時：2月14日(土)
 事業部

児童発達支援・放課後等デイサー
 ビスで働くOTの視点と実践
 日時：2月15日(日)
 発達障害支援部

復興リハとして作業療法士だから
 こそできた支援とその成果について
 日時：2月21日(土)
 災害対策委員会

第3回事例検討会
 日時：2月25日(水)
 金沢西支部

**大学院で学んで
 保健・医療・福祉、教育の
 リハビリテーション関連領域の
 リーダーを目指しませんか**

多分野融合型の教育・研究体制
 働きながら学べるオンライン遠隔講義や
 昼夜開講制度、長期履修制度
 授業料や奨学金制度など
 経済的負担にも配慮



総合リハビリテーション学研究科
 総合リハビリテーション学専攻（修士課程）

詳細は本学HPを
 ご確認ください



〒924-8511
 石川県白山市笠間町1200番地
 電話 (076) 276-4400 (代)

あらゆる人々が輝く社会を
 実現するために
 サンウェルズは
 進化と変化を続けます。

SUNWELS

全国に続々展開中！
 パーキンソン病専門ホーム **PDハウス**

1 専門医監修の リハビリプログラム	2 脳神経内科医による 訪問診療	3 お看取りまで対応 24時間の訪問看護体制
-------------------------	-----------------------	-----------------------------

北陸エリア開設一覧 ※2025年5月末時点

石川県 PDハウス白山 2018.06 OPEN PDハウス小坂 2018.12 OPEN	PDハウス藤江 2023.04 OPEN PDハウス戸板 2023.04 OPEN	富山県 PDハウス秋吉 2022.10 OPEN	新潟県 PDハウス新潟紫竹山 2024.10 OPEN
--	--	---------------------------------------	--

リニューアルしたHPで
 最新情報を随時発信中！

株式会社 サンウェルズ
 ご入居・お問い合わせ窓口 | 受付時間 9:00-17:00
0120-540-367

HPはこちら

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人 センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会 青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
医療法人社団和宏会

C会員

医療法人社団澄鈴会栗津神経サナトリウム
社会福祉法人恩賜財団済生会石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団千木福久会

医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
医療法人社団和楽仁芳珠記念病院
医療法人社団 竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団持木会 柳田温泉病院
医療法人社団 光仁会 木島病院
医療法人社団橘会整形外科米澤病院
宇野酸素株式会社
株式会社金沢義肢製作所
株式会社トミキライフケア
エア・ウォーター・リンク株式会社 北陸支店
セントラルメディカル株式会社
株式会社 メディベック
株式会社 サンウェルズ

D会員

有限会社 さわやか金沢



県士会では会費ペイシステムを用いて全会員に向けてメール配信を実施しております(定期配信は毎週火曜日)。重要事項を送信することもありますので、確実にメールが受信できるように確認をお願いいたします。詳細・メールアドレス変更等については県士会ホームページをご参照ください。

県士会Web QRコード▶



会員数

会員数 845名 賛助会員 42施設・企業
認定OT 45名 専門作業療法士 4名(12月現在)

編集後記

2026年を迎え、能登半島地震から2年が経過しました。復興支援や地域での交流活動など、会員の皆様の地道な活動が、着実に地域の力となっていることを紙面作りを通して実感しています。さて、寒い冬はつい背中が丸くなりがちですが、そんな時こそ美味しいものを食べて、温泉にでも浸かって、心身ともに解きほぐす時間が大切だと感じています。今年も、皆様の活動という熱を、紙面を通じてお届けしていきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：酒野直樹、五十嵐満哉、川口朋子、藤田隆司、寺井利夫、萬貴裕、太田哲生、岩田望、網谷郁美、北野早紀、竹中朋也、仲佐東、上野玲子、小川正人、宮田真由美、竹村健太郎、増田司、南澁太

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：米田貢 印刷：ヨシダ印刷株式会社